

TWENTY-SEVENTH ANNUAL REPORT
 OF THE
 BUREAU OF AMERICAN ETHNOLOGY
 W.H.HOLMERS, CHIEF
 RESEARCH WORK

インディアンの部族に関する研究は、1905年の6月5日に長官により承認された実行計画に従って推進された；その中には、オレゴン、コロラド、ニューメキシコ、インディアン強制居住区、オクラホマ、ペンシルバニア、そして、フロリダ各種の先住民族に関する研究、さらには、特に局の内部での研究、そして、各地域にある様々な博物館や図書館における研究が含まれていた。民族局の科学技官は、Mr. F. W. Hodge がスミソニアン研究所の秘書室から、民族局に民俗学者という肩書きで移動した、この過程が彼を *Handbook of the Indians* の本を完成させることに専念させたのであるが、この移動以外は、従来そのまま残っていた。

彼の管理者としての仕事から解放されて、この酋長は *Handbook of the Indians* の本の原稿を書き上げ、その見直しをすること、そして、多くの部族のもつ技術的なもの芸術などに関する学術論文をまとめことに、殆どの時間を費やした。また、彼は、国立博物館における前史考古学部門の名誉学芸員としての仕事も続けた。

Mrs. M. C. Stevenson 女史が、Zuni インディアンに関する彼女の論文、この論文は12月に印刷局から発行されたが、その論文の最終的なゲラ刷りを読みながら、その年の前半を民族局の事務所に残っていた。そして、1月に、ニューメキシコのタオスのプエブロ集落が、彼女の研究を続けるのには最も適当なところであると考えて、再び現場研究に入った。このプエブロ集落での彼女の仕事の取り掛かりで、Mrs. Stevenson は、沢山の困難に出会い、彼女の最初の一年の研究は、遅々として進まなかった；しかし、暫くして、インディアン局長官の誠にもって思いやりの深い協力のおかげで、彼女のこの部族に関する歴史、言語、そして、生活慣習についての研究は、多いに進展し、その年の暮れには順調に進んでいた。

その年の前半に、Mr. James Mooney は、現場での研究の中断のあと、民族局のほかの仲間達と協力して *the Handbook of the Indians* の仕事をしていた。1905年の9月19日に、彼はカイオワ族、南部シャイアン族、そして、同盟した部族、これは、民族局と国立歴史野外博物館との間での統合協定の遂行の一環として生まれたものであるが、こ

これらの研究を続けるために、ワシントンを去り、オクラホマの西部にと向かった。彼は、カイオワ族と一緒にいる間は、オクラホマのアナダルコにある行政官のところに滞在していた。そして、シャイアン族と過ごすときには、その部族の最も伝統的な要素の残る主要な居住地の、オクラホマのカントンメントに事務所を構えた。そして、Mr. Mooney は、4月の終わり頃にワシントンに戻り、*the Handbook of the Indians* にも大変な興味を持ちつつ、彼の研究の続きをしていた。

J. Walter Fewkes 博士は、その年の間に、Porto Rico ならびにその周辺の島に住んでいる先住民民族に関する研究の論文を完成していた。また、博士は、1905-6 年にかけての冬の間、民族局とスミソニアン研究所の共同主催の元で推進されていた東部メキシコにおける現場研究のまとめの準備をしていた。この論文は、第 25 年報に掲載されることが認められ、その年の暮れに発刊された。また、Fewkes 博士は、アリゾナの Little Colorado 溪谷の古代遺産に関する速報の発刊を推進する面でも、顕著な貢献をしていた。

その年に、John R. Swanton 博士は、彼がその数年間から収集していたトリンギット族のいろいろなもの、民俗学的なもの、神話学的なもの；これらのものは民俗学的なもののすべてと、そして、神話学に関するものの一部は第 26 年報に掲載されることが受け入れられたもので、それらのすべてを整理し、発刊するための準備をしていた。Swanson 博士は、とりわけルイジアナや南部テキサスに残っていた言語学の遺産、それらの殆どは、消えてしまう寸前のものか、或いは、すでに無くなっている状態であったが、これらの研究にとっても興味を持っていた；そして、ツニカ族の言語の文法と辞書は、よくまとめられ、一方、ナチス族の辞書は、発行される段階になっていた。

Mr. J. N. B. Hewitt は、いろいろな言葉や名前の護憲についての研究とその報告書、そして、*The Handbook of the Indians* に掲載する重要な論文を丹念に検討し、整理に専念し、そして、民族局のほかの研究者達と協力して重要な研究のゲラ刷りの校正をしていた。

その年の間、Cyrus Thomas 博士は、原稿の最終的な見直しと、そのゲラ刷りの仕事を助けながら、*The Handbook of the Indians* に相変わらず専念していた。最初の、2~3 ヶ月の間、彼は第 28 速報、この速報はメキシコの遺産を扱ったもので、—その仕事のための、彼のアメリカ中部の象形文字に関する膨大な研究は、まことに彼にふさわしいものであったが、その自分のゲラ刷りの見直し、修正の手助けをしていた。

the Handbook of the Indians の骨格の原案が 7 月の初めに Public Printer に伝達された。膨大な部族と一般論文が、直接民族局と関係のない専門家たちにより準備されたという事実からすれば、それを受け取ったときにそのおのおのにたいして、*the Handbook* の完全なゲラ刷り原稿を提出することが、非常に参考になったのではと思われる。こうすることで、ゲラ刷りの校正をするときに、確かに時間がかかったが、この段階で取り入れられた訂正や示唆が、この計画の賢明さを明らかにした。その年の暮れになり、すべての論文が、544 ページにわたる、書簡 “N” という形から、論文 “Heraldry” となり、

そして、最終的に発刊された。

引き続き、民族局の名誉言語学者であった **Franz Boas** 博士の指示で、**the Handbook of Languages** に関する仕事はその年の間続けられた。この研究の骨格となる沢山のアメリカの言語一語にすると 16 になるが一、エスキモー族とイロコイ族のものを除いて、その輪郭が、いま現実に明確になっている。その年に、**Edward Sapir** により、オレゴン州のヤキマ族に関する現場の調査が、そして、インディアン強制居留区にいたユチ族に関する研究が、**Frank J. Speck** により進められた。

Mr. Stewart Culin、彼は **the Brooklyn Institute of Arts and Sciences** の館長で、彼のインディアン狩についての論文が、第 24 年報の大半を占めているが、その当時、自分の仕事の下書き原稿の整理に専念していた；しかし、かれは延長された時間に現場にいなかったために、その研究は、その年のくれまでに完結されなかった。

それ以前に発足されることができなかったアメリカの遺産の保護に関する立法議会による法制化の動きが、その前の年になり、沢山の人たち、ならびに、研究所により活発に続けられ、そして、具体的な指針が 6 月に法制化された。南西部に残っている遺産の保護に関する具体的な政策の始動の段階で、公共物の保護に責任を持つ政府の部署を手助けするという観点で、民族局は、人類学的に重要な場所、とりわけ、遺跡となったプエブロや断崖居住物の、紙面の目録作りに積極的な取り組んだ。そして、その年の間に、こうした遺産と考えられているものすべての完璧ともいえる記述に供されるような一連の冊子の実現に多大の進展をみる事ができた。この作業を推進するなかで、**Mr. E. Hewett** は、今日、その大部分が **Jemez Forest** 保護居留区の中に含まれている **Jemez Plateau** 地域にある古代史跡の調査をする目的で、ニューメキシコに行く職務を任命された。この仕事の最初の報告書が、**Hewett** のワシントンに戻ったときに簡潔になされ、その後、文化遺産の解説的な記述の目録という形で論文が書かれ、民族局の速報 32 号として発行された。3 月になり、**Hewett** は、南部コロラドの、ある境界区域に関する **the Interior Department Survey** (内部局調査室) の一員として、民族局の代表の役割を務めるように依頼された。基本的な業務は、**Mesa Verde** 地域にある極めて重要な文化遺産の、**Mesa Verde** 公園として申請されている領域との関係を明らかにすること、すなわち、議会で保留となっている懸案事項を制定するための裏づけをはっきりさせるというものであった。**Mr. Hewett** の報告書を受け取ったあと直ぐにこの懸案事項は法制化された。この研究調査で **Mr. Hewett** による観点のなかで維持されていた主要な目的は、データを収集して、民族局が発行している一連の速報でもあるが、**Mesa Verde** 領域に残っている遺産についての速報の編集をすることであった。

2 月になり、**Ales Hrdlicka**、彼は国立博物館の職員が、化石化した人間の骨、これは太古のものであることを示唆しているものであるが、これが発見された幾つかの場所を調査するという目的で、フロリダのサラソタ湾のオスプレイに行くことを発令された。得られた調査結果は、その遺産が太古のものであるという理論には合致したものではな

かったが、しかし、Hrdlicka 博士と、T. Wayland Vaughan 博士、彼は、その地域における化石となっている物質のこれまでとは違う経過について研究するために地質学調査の代表として彼に同行していた人であるが、彼等が観察したとはまことに興味あるものであった。

国立博物館の、Walter Hough 博士は、南西部の文化遺産の研究での重要な役割を果たしている人ですが、彼は、民族局の一連の報告書の 1 つである速報に、Upper Gila 溪谷の遺産についての論文を書いていた。

インディアンの共有地の調査に認可された許容事項

そうした時期に、南西部のインディアンの共有地、ならびに、保護居留区の調査を推進する許可の申請が、次のような形で決定を下された。

- (1) 1905 年の 9 月に、アメリカ人類学研究所の南西部支部が、1906 年の春から始める、南西部にあるインディアン保護居留区と森林保護区域における人類学的な調査を実施するための許可の申請をした。後になり、1905 年の後半に、そのための予備調査をすることが追加で申請された。民族局の要請により； これらが、インディアン局ならびに、森林管理局から、認可された。
- (2) 1906 年の 1 月になり、アメリカ民俗局による、民俗学の権威者達がニューメキシコ、特に、タオスでの民俗学的な研究をするための要請が、インディアン局により、うまい具合に裁可された。
- (3) 1906 年の 4 月には、アメリカの自然歴史博物館が、当時、民俗学学術員であった Clark Wissler 博士をとおして、南部カリフォルニアのインディアン保護居留区の調査を推進するための許可を要請した。民族局の要請により、インディアン局によりこれが認可された。

あるひとつの許可申請が拒絶され、1 つが取り下げとなり、そして、1 つは、その年の暮れまで保留となった。

収集

その年の間になされた人類学的、ならびに、民俗学的な試料の収集は、計画された現場での調査研究の時間を損なうとのことで、それまでよりも制限されることとなった。最も重要な収穫は、Jemez 台地の古代遺跡についての Mr. E. L. Hewett の調査の結果である。そのほか、注目に値する収集物は、オクラホマにおける Mr. Mooney の収集、ならびに、フロリダにおける Hrdlicka 博士によるものである。こうしたすべての収集物は、それまでの慣例に習い、国立博物館に移管された。

インディアン代表団の研究

その年にワシントンを訪問したインディアン代表団の研究も、それ以前と同じように推進された。142 の肖像画のネガが作成され、それらの寸法と型が非常に沢山得られた。

編集事業

Mr. John P. Sanborn, Jr, 彼は、1906 年の 4 月 6 日に、編集、ならびに、編纂の見習いとして採用され、その後、10 月 6 日には正式採用となった。；しかし、10 月の 19 日に彼は、自己都合により、直ぐに一時解雇された。1906 年の 2 月 6 日に、Mr. Joseph G. Gurley が、市民奉仕委員会による資格をもって、見習いの編集者として採用された。第 25 巻、ならびに、第 26 巻の年報、そして、速報の 31 号、32 号の読み取りが行われ、印刷に回された。そして、第 23 巻、第 24 巻の年報と、速報の 30、31、32 号の校正用ゲラ刷りが、Mr. Hodge や、そのほか沢山の、速報の 30 号(the Handbook of Indians) の協力者が、そうした、読み取り・訂正の大変な仕事を引き受けていたのであるが、これが編集者の注目の目を引くこととなった。

挿絵の仕事

写真なども含め、挿絵の仕事は、それまで、Mr. Henry Wlther の助けを借りていた Mr. De Lancey Gill の責任で推進された。報告書のために準備された挿絵の数は、852 で、印刷にまわされた数は、全部で 1023 にまでなった。

発刊

その年に、第 25 巻と、第 26 巻の年報が長官のほうに提出され、第 25 巻は、公用印刷局に回され、第 26 巻、続いて発刊される予定を完成されるために、民族局に保管されていた。速報 30 号(第一部) は、前の年の暮れには、印刷に回っており、速報の 32 号が製本中で、31 号は、その年の暮れには印刷される予定で印刷局のほうに移されていた。速報 28 号は、10 月に発刊され、そして、29 号と、年報の第 31 巻が、続いて 12 月に発刊された。

図書

図書類は、Miss Ella Leary、彼女は本、パンフレット、そして、定期刊行物などを登録したり、目録化する仕事を完結した人であるが、その彼女の責任において更新、管理さ

れている。図書館の所蔵が増えたこともあり、約 600 冊の出版物、主として、贈呈物、あるいは、交換により送られた定期刊行物、ただし、これらは民族局の研究にはあまり関係しないものであるが、こうしたものが国立博物館の図書館に移管された。その年に受領され、記録されたものとしては、900 ものパンフレット、ならびに、500 種類におよぶ定期刊行物の最新版などが含まれていた。それらのうちの 150 巻が政府の印刷局で、製本化された。こうして今日、図書館には、12,858 の製本化された本、9,000 冊のパンフレット、そして、人類学、ならびに、それに類似するような逸話に関係した膨大な数の定期刊行物が所蔵されている。

事務の仕事

民族局の事務局の推進力は、5 人の正規事務員；主任の Mr. J. B. Clayton；速記者の Meiss Elilie R. Smides、ならびに、Miss May S. Clark；事務員で活動的な Miss Ella Leary；タイプライターの Mrs. Frances S. Nichols の結集によるところのものである。その年は、通信員の Mr. William P. Bartel は、事務員に昇進し、the Interstate Commerce Commission(全国通商委員会)に移動した。

資産

民族局の資産は、7 つに分類されたものからなっている：事務所の備品と器具類；野外調査用品一式；言語額と民俗学に関する印刷物、ならびに、そのほかの記録物；写真、スケッチ、絵画、そして、版画；研究図書室；研究用に利用するために、協力者達により一時的に保管されている収集物；そして、民族局の発行所の編集するために集めたものの返却されずに残されているものなどである。

その年の間、民族局の資産に加えられたものには、タイプライター、そして、多少の必需品として事務備品が含まれている。

付随の論文

この論文のなかでは、オマハ族についての補足的な挿絵、これは、北アメリカ地域の民俗学、とりわけ、われわれが抱いている偉大なるスー族に関する知識に対して重要な貢献をするに違いないと信じられているものであるが、こうしたものを見ることができる。こうした挿絵は、とくにその出所に関しては幸運によるところがある。30 年の間、Miss Fletcher は、オマハ族の生徒達と非常に親密な関係を持ち、そして、彼等の友人関係と、よそ者に対しては滅多に与えることのない信頼関係のもとに生活を謳歌していたし、一方、La Flesche、彼は、その部族の一人であり、そして、主要な酋長の息子でもあったのだが、

彼の部族の人たちに関係した情報を保存することと、それを広く知らせるという当初の目標と結びつけた主題の仕事に取り組んでいた。

こうして、著者たちの目的と計画が、うまく合致して次のように述べていた：

この共同研究は、オマハ部族の宗教的な儀式や慣習のそこに横たわっている考え方を理解するため、そして、先の世紀の初めの頃、すなわち、この研究が基盤としている情報のもととなった男達の殆どのものがここで述べられている生活のなかで主役として活躍していたころの、彼等の実態としてその姿を忠実に描くために、通常ではなかなかその機会が得られない研究の結果をまとめたものです。ここで、説明に使われているものは、他の観察者達から提供されたようなものは一切なく；原住民の人たちから直接に収集されたものだけが、使われています。

この論文は、オマハ族と白人との関係を取り扱った最終章で完結していますが、ここで、かつてないほどの勢いで増していく文明化の侵害の始まり、そして、じわじわとではあるが、抗しようのない弱小民族を新しい世の中の秩序により形作られた状況の中に閉じ込めようという枠組み作りからのその概要を検証しているのです。